

「着物は好きだけれど着る機会がない」。こんな着物ファンが集まり、日常生活の中で日本の民族衣装を着て食事や観光を楽しむ集いが北上市を中心に開かれている。その名も「きものde探検隊・みちのくKIMONO愛好会」。学生から年配者まで幅広い年齢層が集まり、普段着として着物を着る楽しみを広める。日本の伝統文化を後世に残す取り組みだ。

普段着で着る 楽しみ広める



着物愛好者が集まる「きものde探検隊・みちのくKIMONO愛好会」(9月、SL錦秋湖号に乗る集い)

きものde探検隊は、着物愛好者や呉服業者が中心となり全国で活動を展開している。着物を着て、名所、旧跡、観光地を訪ねたり、食事や買い物をする純粹に着物を楽しむ会で、宮城県、東京都、石川県、沖縄県など各地で開催され、地元民をはじめ、全国から愛好者が集まるイベントになっている。

みちのくKIMONO愛好会は北上市鍛冶町で呉服業を営む和の衣「さこう」の佐藤敏孝さんが中心となって、集いを企画。十三年の「北上展勝地さへらまつり」に合わせ開催した桜並木を歩く集いでは、関東などからも参加者が訪れ、これが大規模なも

みちのくKIMONO愛好会 北上

のとしては最初の活動となった。

十四年九月には、JR北上線で三十五年ぶりに復活したSL「錦秋湖号」に乗る集いを開催し、北上市内から十五人が参加。の中には家でも浴衣を着ることが多いという男子高生や十代の女性会社員の参加もあり、世代を超えて日本文化を愛する心を語り合った。

また、SLの雰囲気に合わせて明治・大正時代を思わせる同会でのたちは、SLファンからも多くの注目を集め、

着物の良さを幅広い人々にPRした。佐藤さんは「着物が好きという男子高生の参加があったのは大きな発見だった」と集いの成果を語る。

生活の欧米化に加え、高価で一人を着るのは難しいというイメージもあり、着物の着用率は減少している。佐藤さんは、「多くの人に着物姿を見てもらい、ファンが増えてくれれば。活動を通じて日本古来の伝統文化、芸術など、精神文化も大切に残していきたい」と話している。

日本の伝統文化後世へ